



日本民族総福音化運動は

一つ心で

日本民族総福音化運動協議会会計監査

JOYFUL グレース・チャーチ 牧師 小島 武



終わりに兄弟たち、喜びなさい、完全な者になりなさい。慰めを受けなさい。一つ心になりなさい。そうすれば、愛と平和の神はあなたがたとともにいてくださいます。

第Ⅱコリント一三章一一節

リバイバル

日本民族総福音化運動協議会が協力しているユニオン神学大学教会成長大学院日本校で第五回「教会成長の方法と実際」というテーマで『韓国ソマン教会の元老牧師(郭善熙師)』によつて二月二〇日(月)～二三日(木)まで有意義ある講義が行われました。韓国ソマン教会には、数万名の教会員の中に二百名の芸能人が属し、あの冬のソナタで有名なチェ・ジユも在籍しているという教会です。

その学びの中で、聖日礼拝のメッセージに牧師は命をかけて説教しなければならぬと教えられ、ガーンと頭をハンマーで打たれたような感じがいたしました。自分自身として大いに反省し二〇〇〇年前の主イエス様の一つ一つのメッセージを思い起こしまし

た。主は、いつ十字架に架けられてこの地上での生涯を終えられるのかを、公生涯に入られる時にはすでに知っておられ、命を賭けて、時代を越えてすべての人類に必要なメッセージを語ってくださったのです。私たちメッセージヤーも何時、この地上での生涯が終わるかも解りません。その事を思うと、聖日礼拝のメッセージは自分の命と同じくらいに大切であるとの学びを受けました。その後の聖日礼拝から、その学びが生きて働いている感じです。主が臨んでくださっているようです。

その講義の中で教会は、聖なる場所とならなければなりません。大酒飲みの方が教会に来られると、お酒が全くいらなくなるような教会とならなければなりません。競馬・競輪・競艇・マジック・花札・トランプ・その他賭け事をしていく方が教会に来られると一切の賭け事が完全に絶たれるような教会とならなければなりません。怒りっぽい短気な方が柔和な方に変えられなければなりません。家庭の不和が解決され、一つ心で祈るように変

えられなければならない。病気のために祈ると癒される教会とならなければなりません。すべての悩み、苦しみが益とされ喜びとならなければ、教会はリバイバルしませんと講義を受け、このような内容は今までも何度も頭では学んでいたのですが、余り心にとどまっていなかったのです。しかし今回は心にとどまった感じがするのです。

一つ心：日本民族総福音化運動協議会は、「全ての教会が教理、教派を越えて手をつないで祈る」をテーマに二〇〇五年六月に発足しました。この時の評議委員会に全国から東京お茶の水のYMCAに集まれ会議が開かれました。教理・教派を越えてというキヤッチ・フレーズに、確かに教理・教派を越えて多くの牧師先生が参加され素晴らしい一歩を踏み出しました。

現在、ゆつくり・ゆつくりという感じで一歩一歩地固めがなされていいますが、着実に成果が現れ成長しているのを見ることに大きな働きになっていく息吹を感じます。今回のユニオン神学大学教会成長

大学院の学びに於いて共に学び、寝食を共にした牧師先生方、ホーリネスの教会の牧師先生・バプテストの教会の牧師先生・救世軍の牧師先生・日本キリスト教団の牧師先生・聖霊派の教会の牧師先生と三十名の先生方が参加されていました。その中で、ある先生は自分の心の内を打ち明けられ、「自分の心の中にはイエス様が内住されていない、聖霊が内住されていないのです」とおっしゃったのです。私はその先生の質問に聖書の箇所を引用させていただきます。

さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立つて大声で言われた。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。」聖書が言っているとおりに、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。

ヨハネ七章三七〜三八節

「先生の心の中にはイエス様を救い主と信じ受け入れられた時、すでにイエス様は先生の心の内に内住され聖霊様も内住されているのです。しかし流れ出ると書いてありますように、まだもしかしら流れ出てきていないのかも知れません。祈り求められましたら必ず流れ出るようになります」と励まさせていただきました。

一つ心……この文面のように互いに教理を越え、教派を越えて話し合い、お互いに謙遜になり学ぶなら、一つ心になって祈ることが出来るのです。私たちは話し合うことによつてお互いの偏見を取り除くことが必要です。

私が救いを受けたのは三十三才の時です。クリスチャンであった家内に連れられて教会に行ったのが始まりです。牧師先生に洗礼を勧められ自分

が新しく変わるならと思いい、洗礼を受けたのですが、洗礼を受けて後、自分の生活、態度、考え、心は全く変わらなかつたのです。教会に行き、牧師先生の説教を聞きながら牧師先生が話される説教は全部ウソだと思いい、その時間は苦痛でした。盲人の目が癒されるとき、イエス様が土を取られ、土につばきをかけ泥をつくり、その泥を盲人の目にすりつけられ、シロアムの池で洗いなさいと言われ、盲人が池に行つて洗うと目が見えるようになった。私は「そんなバカな」と思つた。また、イエス様が弟子たちに船で先に向かう岸に行きなさいと言われ、夜、向こう岸に向かっていたらイエス様が湖の上を歩いて船に追いつかれ、それを見たペテロが主の元に行きたいのですがという、イエス様がペテロに來なさいと言われ、おそるおそる船から降り湖の上に立ち、沈まないで、イエス様に近づこうと歩き出していたとき波を見て恐れ、沈みそうになつてイエス様に助け出された事、聖書のあらゆる場面を牧師先生がメッセージされると全部ウソで偽りだと思いいながら聞いていたのです。しかし賛美は素晴らしく、いつも心が洗われるようで、疲れた身体が元気になるようでした。私の教会生活は賛美を聞き歌いたいというような日々であつたのです。メッセージは難しくてテンパンカンパン、おまげにウソだと思つていましたので、メッセージの時間は早く終わればいいなと時間ばっかり気にしていました。礼拝が終わつて兄弟姉妹との交わりは、今までの友人(クリスチャンでない方々とは明らかに違つていました。彼らはいつも明るく朗らかに家内の明るさ、おおらかさが分かるような感じでした。私は家内

の明るさで過去の長い暗い人生が明るく変えられていくような気がしました。しかし本質はちつとも変わらなく、「何で変わらなかないかね」と家内に聞きました。そうすると家内は「聖霊を受けたら変わるよ」と言つてくれ、そうか聖霊を受けるよと変わるのか、ヨシツ牧師先生に言つて聖霊を受けようと、しばらく後、牧師先生の所に行つたのです。「あのね、先生、ワシね(広島弁)、先生のメッセージでチつとも変わらんけ、どうしたら良いかね」と進言すると、牧師先生は顔色ひとつ変えず、私の心を見透かされるように、「兄弟、聖霊を受けませんか」と勧めてください、毎週土曜日の午後行われる聖霊待望会に参加するようになったのです。

過去を振り返つてみると私は、毎週聖霊待望会に参加したように思ふのですが家内に言わせると結構休んでいたようです。聖霊待望会に参加するようになった一年後、その日の土曜日は何かしら違つていたようでした。私は人が聞いているかも知れないという恥ずかしい思いが全くなく、口、主に祈つていました。私は心から私の罪を告白しました。競輪、競艇、マイジャン、賭トランプ、賭花札、過去には競馬、嘘を多くの人に付いた事、人や家、持ち物を妬んで嫌みをタラタラ言つた事、一生懸命に働いている薄給の母に無心して、そのお金をマーシャンの賭け金にしたこと、お酒をたくさん飲んで、たばこを吸つて、いふこと、その他、思い出す限りのあらゆる罪をイエス様に告白して、この罪人を哀れんでくださいと祈つていました。このような汚れた者はイエス様に受け入れられないと思つていたので、しかし勇氣を持つて言つたのです。「イ

エス様、このような汚れた罪人でもいいんですか」と問うたのです。

そのときです。一度も味わたつたことのない、暖かい大きな愛が私に注がれたのです。そして私のすべてを包むように、暖かくあの優しい言葉で言われたのです。「わたしの愛する子よ、そのままわたしの所に來なさい」と。私はその言葉をお聞きした瞬間、イエス様の愛で包まれ、泣いて泣いて、鼻汁がどんとンジュータンにしたたり落ちるのもお構いなく号泣したので。その時、牧師先生が近づいて来られ、「兄弟、聖霊を受けられましたね。」と言つて下さり、祝福の祈りをしてくださいました。あれだけ泣いたのは物心ついてからは、現在の所あれつきりです。

イエス様の愛が注がれたその日から、私からいつさいの賭け事をイエス様は取り去つて下さいました。人の持ち物についても妬みが全くなくなり、かつて人の持ち物をほめるようになりました。お酒もたばこもその日以来いらなくなつたのです。あの日以来現在まで主の愛の中にとどまっています。

ソマン教会の元老牧師、郭善熙牧師先生の講義で、聖書の世界はヨーロッパからアメリカに流れ次々とリバイバルされ、現在韓国、中国、東南アジアに注がれており、必ず日本はリバイバルされなければならぬ事、韓国、中国、日本と手をつなぎ、日本がリーダーになつて世界に出ていく時が来る、それから主が訪れられる時が来るのですと言われたのです。

日本民族の総福音化は教理、教派を越えた小さな交わりを通してやがて大きな流れとなつていくと信じ、お祈りさせていただきます。

ブロック活動レポート1 九州ブロック・大分集会

九州ブロック長

橋本 守

(大分カルバリーチャーチ牧師)



「地方の教会興し」のヴィジョンを持つ手束正昭牧師との出会いが与えられたのは、一九九四年四月のある教職セミナーに参加したときのことでした。

さっそく、その四月、大分に来て頂きました。わずか十名で、この礼拝でした。会堂建設のメッセージを語って頂き、午後はそのセミナーでした。そして、翌年一九九五年十一月、見事総工費七千万円に及ぶ立派な新会堂が建つたのです。礼拝出席、平均十数名の中で出来たのですから、正にこれは神の奇跡のなせる業という他ありません。

以来、毎年二月には手束牧師にお越し頂き、近隣の教会に呼びかけ、リーダーセミナーなど積み重ねてきました。この流れの中で、今回は「日本民族総福音化」をテーマに二月十、十一日と聖会の時を持つことが出来ました。例年通り各教会、牧師達にこの聖会の案内を送りました。今回は、この協議会賛同の九州地区の方々にも発送したのですが、普段親しくしている近隣の教会の牧師、信徒の集まりとなりました。しかし、遠く福岡から、ま

た鹿児島からも参加者があり、これには大いに励まされたことです。

聖会が始まると、聖霊の臨在が強く臨むものとなりました。三回にわたって、手束師より日本民族総福音化のメッセージを頂いたのですが、振り返って思うのは、それぞれ地域ごとに、教団教派を超えてこのように一つに集まる中に、主は喜んで臨んで下さるということです。これが日本民族総福音化を実現させていくものの一つであるうかと強く考えさせられています。

私がいる大分の地域において、一九九三年よりSP(Spiritual Prayers)祈り会を毎月一回(現在二ヶ月に一回)近隣の牧師たちがあつまり、恵みを分かち合い祈り合う時を持っています。これによって「キリスト生誕二〇〇〇年祭」大分」など、全県下に及ぶイベントが幾つか持たれてきました。その一つ一つに、聖霊のお働きを見ます。共に集い、祈り合っていく中に、主が喜び、聖霊が臨み、教会が活性化され、これが地域のリバイバルになっていくのであらうと信じます。

ブロック活動レポート2 九州ブロック・鹿児島集会

西坂弘智

(鹿児島在住・高砂教会信徒)



昨年の三月十二日に手束先生を阿久根に招き、阿久根ルーテル福音教会に於いて、初めての「日本民族総福音化セミナー」を開催することができました。セミナーには、近隣の教会から牧師先生をはじめ信徒の方々が多く参加してくださり、心からの賛美を主に捧げセミナーに備えることができました。セミナーにおいては、手束先生が日本人のアイデンティティーの喪失による日本の危機について語られ、今こそ私たちクリスチャンが起ちあがり、日本のために祈り行動を起こさなければならぬことを教えられることができました。

そして、昨年に引き続き今年もまた神様は、手束先生を私たちの所に送ってください、阿久根めぐみ伝道所の新会堂において第二回目日本民族総福音化セミナーを開催する恵みに与ることができました。

今回は、新会堂で音響もよくセミナーに備える賛美もすばらしく盛り上がりました。また、お隣の水保市から水保福音教会の、牧師先生と信徒の方々の参加もあり、アメンの声あり、笑い声ありと、と

ても恵まれた集会となりました。

セミナーにおいては、日本のクリスチャン人口が一パーセントを超えない現状を打破するための方策の一つとして創価学会の布教の仕方进行研究し、家庭集會を取り入れてセルグループによる集會を家庭で行うことが重要であり、セルリーダーの養成訓練をし、育てていくこと。そして、教職者も教会から出て行って家庭集會においてメッセージを語ることも必要であることを語られました。さらに早天祈禱の励行、祈りの重要性を力説されました。

今年のセミナーにおいても日本の危機的な現状に、日本の教会の危機感の無さと内側ばかりに目を向けている私たち地方の教会の姿を改めて認識させられました。また、翌日の主日礼拝説教にて先生が言われた運命と宿命の違いについて、私たちの祈りにより運命は変えることが出来ること、だから私たちは必死に祈らなければならぬことを教えられ感謝でした。このセミナーが来年も引き続きこの地で行われることを祈りつつ報告に代えさせていただきます。